



SwanLink

第5号 2019年1月

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。当広報誌をご覧の皆様には健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

今年も広報誌「SWAN LINK」を通じて、微力ではありますが皆様のお手元に医療・介護の情報をお届けしたいと思っております。変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

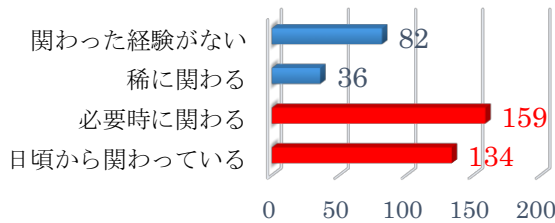
本年が皆様にとって明るく健やかな年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

安来市在宅医療支援センター 職員一同



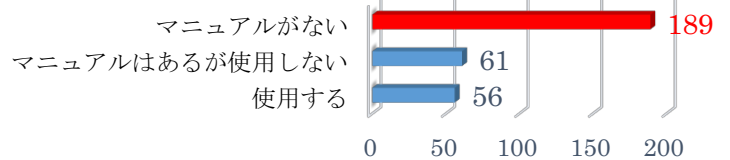
退院支援における在宅医療・介護連携に関するアンケート結果のご報告 今回は、「退院支援への取り組み状況」についてお届けします

Q1. 退院支援に関わった経験がありますか？



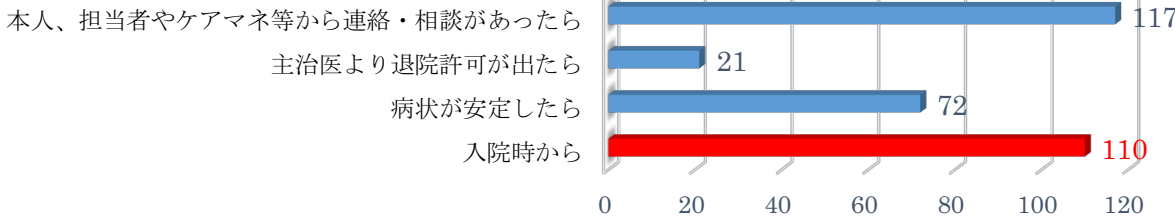
約7割の方が“日頃から関わっている”又は“必要時に関わる”と回答しており、全体を通して、「退院支援」に関する現実的な回答が得られた。

Q2. 退院支援を進める上で、チェックリストやフローチャート等マニュアルを使用しますか？



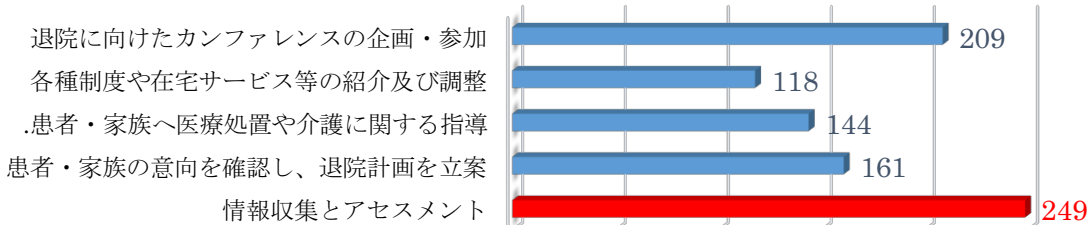
“マニュアルがない”との回答が多い。他圏域では、病院関係者と在宅関係者が入退院時の円滑な連携のために入退院連携マニュアルを作成している。今後は地域として退院支援マニュアルの作成も必要となることが考えられる。

Q3. いつ頃から退院支援を開始しますか？



平成30年度診療報酬改定では、入退院支援加算による評価もあり、入院時等早期からの支援を開始する回答が多い。

Q4. あなたが取り組む退院支援の内容は？（複数回答あり）



“情報収集とアセスメント”の回答が多い。収集した情報が医療チーム内で共有され、在宅関係者にも着実に引き継がれていくことが大切である。

安来市地域連携室連絡会



昨年10月に、第5回安来市地域連携室連絡会を開催しました。今回は、山陰労災病院 総合支援センター、米子医療センター 地域医療連携室の職員の方々にお越しいただきました。会では、各病院の概要や地域連携室の説明のあと、意見交換会を行いました。転院時の連絡方法や普段連携の際に困っていることなどを話し合いました。出席者からは、“有意義な時間を過ごせました”との感想をいただきました。

昨年9月に居宅介護支援事業所「とも・らいふ」が開設されました！

お知らせ



ともに考え、ともに歩む

介護支援 とも・らいふ

主任介護支援専門員 友野 由希子

新年明けましておめでとう御座います。

昨年中は、大変お世話になりました。本年も宜しくお願い致します。

さて、私事ですが昨年の9月に安来市飯島町に居宅介護支援事業所「とも・らいふ」を開設致しました。今までの経験で痛切に感じたのは、利用者本人はもとより、家族をはじめとする周囲の人や医療介護関係者とともに考え、ともに歩むことの大切さです。当事業所の理念は、シンプルに「ともに考え、ともに歩む」にしました。これかも理念通り、皆様とともに、利用者および地域の皆様のお役に立てるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、お願い致します。

TEL 0854-23-0014
FAX 0854-23-0017

所在地

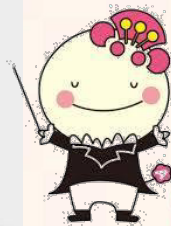
〒692-0014
島根県安来市飯島町262-3
レフィナード I 101

営業日

月曜日から金曜日。
ただし、祝祭日および12月29日
から1月3日までを除く。

営業時間

午前9時から午後5時まで



安来市在宅医療支援センター

〒692-0206 島根県安来市伯太町安田 1700 番地
(安来市医師会診療所内)

Tel (0854)37-9337
Fax(0854)37-1448